

第2回 燕市産業振興協議会 議事録

日 時：令和6年3月28日(木)

13時30分～15時00分

会 場：燕市役所3階301会議室

参加者：鈴木会長（燕市長）

田野委員（燕商工会議所 会頭）

星野委員（吉田商工会 会長）

高野委員（分水商工会 会長）

小林委員（日本金属洋食器工業組合 理事長）

池田委員（日本金属ハウスウェア工業組合 理事長）

矢代委員（協同組合つばめ物流センター 理事長）

阿部委員（燕商工会議所 工業部会 直前部会長）

遠藤委員（燕商工会議所 小売商業部会 副部会長）

中島委員（分水商工会 副会長）

平原委員（分水商工会 商業部 副部会長）

中上委員（第四北越銀行 燕支店長）

池内委員（協栄信用組合 理事長）

杉本委員（巻公共職業安定所 所長）

佐藤委員（公益財団法人燕三条地場産業振興センター 専務理事）

南波委員（燕市副市長）

事務局：産業振興部長 他

会議次第：

1. 開 会

2. 会長あいさつ 燕市長 鈴木力

3. 議 題

(1) 新年度の産業振興施策について

令和6年度産業振興施策について、商工振興課より商工振興施策の説明、観光振興課より観光振興施策についての説明があった。

観光振興施策について、着地型観光と観光商品の造成について質問があった。→着地型観光とは外から観光客に来てもらい、燕を観光してもらう形の観光。観光商品の造成とはツアー商品をつくる上で、まずはここに行き、次にここを巡ってというように、ツアーの行き先を組み込んでいくものを指す。

(2) 各業界における景況について

各委員から業界の景況についてコメントをいただいた。

◆産業団体

- ・燕の業界は全体に原材料費及び電気料金が高止まりして、決していい状況ではないというのが全体の景況感。

- ・個別のことで一喜一憂するのではなく、しっかりと情報交換して、大きな時代変化に対応できるように会議所も情報収集しながら、会員企業に助言をしていきたいと思っている。

- ・4月1日から吉田と分水の商工会と一緒に、新つばめ商工会となる。

その中で、吉田地区は商店街が非常に苦戦している。

- ・消費者の購買意欲の低下があり、例えば百貨店は人の入りは戻ってきているが、消費が伸び悩んでいる。また、人材不足の問題では、熟練工がやめただけで1社だけでなく業界全体の大ピンチになるという、今までとは違う非常に大きな影響が出ることになる。他団体とも連携しながら対応していかなければならないと思っている。

- ・去年の5月以降受注が減少、かつ生産性も落ちている状況。また、人材不足の問題では、産業カレンダーから完全週休2日制に移行している会社も多くなっているが、やはり休日が多いことよりも賃金が高いほうが選ばれる状況。今年もまた最低賃金上がる見込みだが、最低賃金が上がると一般の従業員の給料をすべて2割上げることになる。それに対応出来ないと、大企業と中小企業の格差が拡大し、中小企業が落ち込んでしまうことを懸念している。一方、小売業の特にコンビニエンスストアが非常に好調で新工場が設立されている。この工場に製品を納めているメーカーは好調。既存の工場でも、樹脂からステンレスに変える工場が出てきおり、我々ステンレスを主に扱っているメーカーにとっては、一部いい流れになっている。

- ・卸売業の景況としてはコロナ渦前よりやや低調。半導体関連は好調だが、地方（新潟）までは波及していない。

- ・新札発行の関連機器の関係であったり、国が支援している半導体の関係であったりは好調だが、地場にはあまり話が来ない。燕の企業は、技術力は高いと言われるが、今は「管理（トレーサビリティ）」を求められる。「その製品がいつ、どこで、だれによって作られたのか」を明らかにすべく、原材料の調達から生産、そして消費または廃棄まで追跡可能な状態にすることが求められる。こういったことを、商工会議所青年部メンバーが重要性を感じ、TSO という品質の管理に特化したところの取り組みをしている。また、自分たちでも管理をしっかりと取り組む企業が少しずつ増えている。そのチャレンジの仕方が、非常にこれから楽しみになってくる。医療研究会などもあるが、例えば今後半導体の研究会や、受託加工を受けるためトレーサビリティの勉強会を開催し、有識

者の指導を受けながら技術面もさることながら管理の部分も皆で勉強していく機会等があるとまた新しい風が入ってくると思っている。

- ・燕地区の商店街では最近新しいまちづくりが進み、非常に活気を帯びており、若い世代、親子連れが歩くような商店街に生まれ変わりつつある。一つ課題と考えるのは、いちびの在り方。午前6時から午後1時過ぎまで通止めがある。いちび出店者も減り、利用者も減っていると感じる中で、このままの状況をずっと続けていくことが果たしていいことかと思う。個人的には、いちびの向きを変えるなど工夫により、車両通行を可能にすることを今後は検討していかなければいけないのではないかと考える。

- ・飲食業では、客足が戻っているのは都市部と考えている。地方でも少人数向けに対応している店などは好調だと思う。また、飲食業界でも調理する人の人材不足が大きな課題となっている。

- ・分水おいらん道中が今年まちなかでも実施される。商工会、商店会、観光協会と協力し、まちなかの賑わいを戻そうと企画している。団体だけでなく、周りの人達をいかに巻き込み、街をにぎやかにする意識がこれからの課題と考える。

- ・能登半島地震の補助金など、情報を取ることが大事。

◆公共職業安定所

- ・今春卒業予定の高校生は管内就職希望 92 名全て就職が内定した。うち管内就職が 66 名、管外 16 名、県外が 10 名。管外からの受入れも多く、合計で 142 名が管内地域での就職が内定している。しかし、求人が非常に多いことより、充足率は約 3 割で、厳しい状況になっている。また、雇用調整助成金の利用が、令和 5 年度の申請が 9 月の予算枠で 336 件、昨年度令和 4 年度が 3,310 件であることより、10 分の 1 になっている。これはコロナ特例が終了し、1 年間のクーリングオフが必要であるからであって、クーリングオフが明けたら利用したいという問い合わせは 30 件ほどある。一方、一般の雇用情勢では求人状況は 11 月から増加傾向に推移している。また、求職者については年間を通じ増加傾向に推移している。失業給付を受給される方は約 1 割増加。そのほとんどが自発的離職者になるので、転職希望ということになる。昨年度との違いは、在職中に仕事を探す方より、辞めて探す方が増えていることが特徴となっている。

◆金融機関

- ・昨今は海外展開をしているグローバル企業、それから東証プライム市場に上場している大企業、こういった企業と取引をしている地域の企業についてはサステナビリティや SDGs というものも現実的に対応しなければいけない話題になっている。これは大企業が求めているサステナビリティもだが、ガバナンス、マネージメント、経営管理、そういったものに中小企業が対応しなければなら

なくなってきた。燕の技術力は高いが、生産管理が出来てないから取引ができないという考えは通底してきている話であり、従って、こういった話は必ずや燕市の企業の自分事になると思っている。その点については先取りして市がそのような施策を動かしていただき、力強いサポートをしていただければ大変ありがたい。

・金融機関の原資は預金であることから預金の伸び率があまりよくないというのは非常に問題。一方、貸出は、事業性の貸出が対前年比マイナスで終わる見込み。それを主に住宅ローンでカバーしているが、この3月の段階でカバーし切れなく、融資全体としては若干マイナスになるのではないかという状況。人件費の引上げビジョン及び利息の負担が上がる。事業性の融資が減るという状況で、利息は減る見込み。景気観としては金利が上がってくるのは望ましいことだが、なかなか現実問題として収益に貢献するまでかなり時間がかかるという状況。

◆産業支援機関

・地域企業のマッチングでは引き合い相談件数は昨年より増加したが、成約件数は減少した。大手企業から受注した場合に、どのような体制で社内において取り組んでいったらいいのか、サステナビリティの体制づくりも地場産センターとしても取り組んでいかなければならないとつくづく感じている。

(3) その他

都市計画課空き家等対策推進室より燕市の空き家の現状と対策について説明があった。

4. その他

事務局より職員の異動について連絡があった。

5. 閉 会

参考資料1 配布 資料

- ・令和6年度当初予算のポイント（抜粋）
- ・燕市の空き家の現状について
- ・燕市空き家対策
- ・令和6年度中小企業支援制度